

## 平成 30 年度 収集情報

項 目	内 容
テーマ	家庭における食中毒予防に関する調査結果（調理者の属性に着目した追加解析）
要旨	<p>1 背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都は、平成 29 年度第 1 回食品安全情報評価委員会の検討結果を受け、「家庭における食中毒予防に関する調査」を実施し、その結果を平成 30 年 4 月に発表<sup>1)</sup>するとともに、今後の普及啓発に向けたポイントをまとめた<sup>2)</sup>。</li> <li>・ この調査結果の中では、「調理の前等には手を洗う」との回答が、女性 79.2% に対し、男性は 59.0% に留まるなど、調査対象者の属性により認識状況や実践状況に差がある傾向が見られた<sup>3)</sup>。</li> <li>・ そこで、調査対象者の属性に着目して、改めて解析を実施した。</li> </ul> <p>2 「家庭における食中毒予防に関する調査（本調査）」概要</p> <p>(1) 調査手法</p> <p style="padding-left: 2em;">Web アンケート調査</p> <p>(2) 調査期間</p> <p style="padding-left: 2em;">平成 30 年 1 月 26 日（金）～30 日（火）</p> <p>(3) 対象者</p> <p style="padding-left: 2em;">都内在住の 20 歳～79 歳で、週に 1 回以上自宅で調理をする人</p> <p>(4) 回収標本数</p> <p style="padding-left: 2em;">1,000 サンプル（男性 351 サンプル、女性 649 サンプル）<sup>4)</sup></p> <p>3 解析結果</p> <p>(1) 普段の調理や食事で気を使っていること<sup>5)</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「食中毒予防」の割合を性別で見ると、男性は 15.1% で「食品添加物を避ける」16.5% よりも低く、女性 31.9% の半分以下であった。</li> <li>・ 調理頻度別で見ると、頻度が低いほど「食中毒予防」の割合も低くなる傾向が見られた。</li> <li>・ 中学生以下の子供と同居している場合、独り暮らしや夫婦のみと比較して、「食中毒予防」の割合が高かった。</li> <li>・ 同居者の状況に寄らず、男性は「食中毒予防」の割合が女性よりも低かった。これは「ほぼ毎日調理する」人を見た場合でも同様であった。</li> </ul>

(2) 食中毒予防に関する取組の実践状況<sup>6)</sup>

- ・ 各取組の「必ずやっている」割合を性別で見ると、男性は、18項目中、16項目で女性よりも10ポイント以上低かった。
- ・ 年代別では、多くの項目で、年代が上がるほど「必ずやっている」割合も高くなっていった（ただし20代は異なる傾向を示した）。
- ・ 調理頻度別では、多くの項目で、頻度が高いほど「必ずやっている」割合も高くなっていった。
- ・ 各取組の「必ずやっている」割合について、中学生以下の子供と同居している場合と夫婦のみの場合で比較すると、子供と同居の場合は、18項目中、男性で15項目、女性で14項目について、夫婦のみの場合よりも低かった。

(3) 食中毒予防に関する情報源<sup>7)</sup>

- ・ 実践状況が比較的低い傾向が見られた性別「男性」、年代別「20代～50代」、調理頻度別「週に1, 2回」のそれぞれについて、「ここに情報があれば見る」との回答が3割を超えたものは、「テレビ」「新聞」「インターネット（ポータルサイト、ネットニュース）」であった。
- ・ 中学生以下の子供と同居している場合で、全体と比較し男女とも「ここに情報があれば見る」の割合が高かった情報源は、「テレビ」「広報紙」「医療機関のポスター等」「学校の授業」などであった。

(4) 食中毒予防に関する情報を見ようと思うとき<sup>8)</sup>

- ・ 見ようと思うときについては、性別、年代別、調理頻度別いずれも、大きな差は見られず、「ニュース等で話題になっているとき」「時間に余裕のあるとき」「自分や身近な人に食中毒が疑われたとき」であった。
- ・ 性別では、男性は女性と比べ「ニュース等で話題になっているとき」「自分や身近な人に食中毒が疑われたとき」の割合が低く、「時間に余裕があるとき」の割合が高かった。
- ・ 年代別で見ると、「時間に余裕があるとき」「外出先の待ち時間」では、年代が低いほど割合が高くなっていった一方、「ニュース等で話題になっているとき」では、年代が高いほど割合が高くなっていった。
- ・ 中学生以下の子供と同居している場合では、全体と比較し男女とも「時間に余裕のあるとき」「外出先の待ち時間」の割合が高かった。

(5) 食中毒について知りたいこと<sup>9)</sup>

- ・ 興味のある項目については、性別、年代別、調理頻度別いずれも、大きな差は見られず、「リスクの高い食品」「家庭での食中毒予防のポイント」「原因別症状と対処方法」が概ね上位を占めた。
- ・ 性別では、多くの項目で、男性の割合が女性よりも低かった。
- ・ 中学生以下の子供と同居している場合でも興味のある項目に大きな差は見られなかったが、全体と比較し男女とも興味のある割合が高い項目が多かった。

	<p>(6) レシピサイトの利用状況<sup>10)</sup></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべての属性で5割以上が「レシピサイトをよく見る」とした。</li> <li>・ 性別では、男性の割合が女性よりも低かった。</li> <li>・ 年代別では、年代が低いほど「よく見る」割合が高かった。</li> <li>・ 調理頻度別では、男性は頻度が低いほど「よく見る」割合が高かったのに対し、女性は頻度が高いほど「よく見る」割合が高かった。</li> <li>・ 中学生以下の子供と同居している場合、全体と比較し男女とも「よく見る」割合が高かった。</li> </ul>
<p>添付資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「家庭における食中毒予防に関する調査」の結果（福祉保健局報道発表資料）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</li> <li>2) 家庭における食中毒予防に関する調査報告書より抜粋「家庭における食中毒予防の普及啓発に向けたポイント」・・・・・・・・・・ 7</li> <li>3) 新聞記事 ※委員限り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9</li> <li>4) 自宅での調理頻度（性・年代・性年代別）・・・・・・・・・・・・・・・・ 11</li> <li>5) 追加解析結果「普段の調理や食事でごを使っていること」・・・・・・・・ 13</li> <li>6) 追加解析結果「食中毒予防に関する取組の実践状況」・・・・・・・・・・ 15</li> <li>7) 追加解析結果「食中毒予防に関する情報源」・・・・・・・・・・・・ 19</li> <li>8) 追加解析結果「食中毒予防に関する情報を見ようと思うとき」・・・・ 21</li> <li>9) 追加解析結果「食中毒について知りたいこと」・・・・・・・・・・・・ 23</li> <li>10) 追加解析結果「レシピサイトの利用状況」・・・・・・・・・・・・・・ 25</li> <li>11) 追加解析結果「普段の調理や食事でごを使っていること（食中毒予防の割合）」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27</li> </ol>